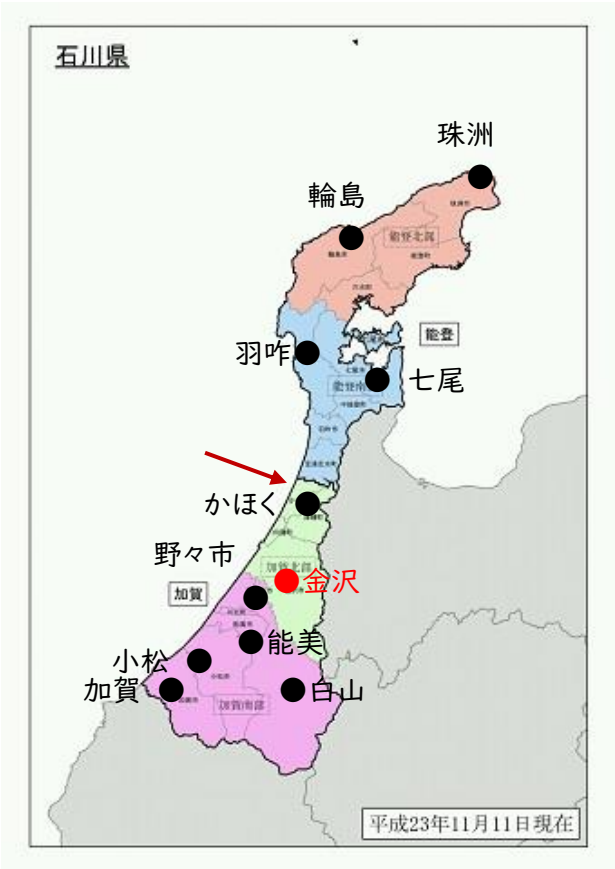
2024.01.18.
T.Kobayashi

少し知りたい石川県のこと
大震災をきっかけに学んだ石川県の歴史

<1>　石川県のあらまし

石川県は、人口 1,110 千人、面積は 4,186k ㎡。南北が 200Km ある、細長い地形になっている。
能登半島の付け根にある「かほく市」「津幡町」を北限とする地域を加賀地方、それより北側を能登地方と言う。
（能登地方と加賀地方の境界を赤矢印で示す）
石川県全体の人口の内、80%以上は加賀地方に住んでおり、能登地方には人口の約15%が住んでいる。

	石川県	参考（千葉県）
面積	4,186K ㎡	5,157K ㎡
人口	1,110 千人	6,275 千人
人口密度	265 人/K ㎡	1,217 人/K ㎡



地域	市町村	人口（千人）
能登	七尾市	48
	輪島市	23
	珠洲市	13
	羽咋市	20
	市部合計	104
	郡部（五町）	70
	能登地方合計	174
加賀	金沢市	445
	小松市	106
	加賀市	63
	かほく市	36
	白山市	113
	能美市	50
	野々市市	54
	市部合計	867
	郡部（三町）	69
	加賀地方合計	936

<2>　石川県の歴史

●古代には大和朝廷の支配下で、4世紀頃に能登国には能等国造・羽咋国造が、加賀国には加我国造・江沼国造が置かれた。
●飛鳥時代には、越国が、その後は分割した三国（越前・越中・越後）のひとつである越前国が現在の石川県一帯を押さえていた。
●奈良時代に入ると、718年に越前国（羽咋・能登・鳳至（ふげし）・珠洲の四郡）から能登国が立てられた。
平城京から出土された木簡に「能登国珠洲・・・」の表記があるので、珠洲はこの時代から名のある存在だった。
珠洲郡には五つの郷があったことも判明しており、能登半島の先端が唯の辺境ではなかったようである。
741年に能登国は越中国に併合された。この時、大伴家持が越中国の国司として赴任した。
757年、能登国は越中国から分離独立した。

●平安時代の初期、823年に、越前国（加賀・江沼）から加賀国が立てられた。
能登地方を支配した能登臣一族が白鳳時代に建てた寺院を、843年に能登国分寺とした。能登国分寺跡は現在の七尾市にあった。また、加賀国には加賀国分寺が現在の小松市にあった。
平安時代には、渤海からの使節の来訪や交易が行なわれ、能登の志賀町の福浦港が使われ、この地には使節を受け入れる客院もあったらしい。
また、奈良時代から平安時代にかけて、北陸一帯に東大寺・西大寺などの荘園が多数有ったと言われており、これがきっかけとなって白山信仰が始まった。
平安時代末期になると、治承の乱・寿永の乱などの源平の戦いの戦場となった。木曽義仲の倶利伽羅峠の戦いなどを経て、源氏による平家追撃の舞台となった。
●鎌倉時代になると、加賀国・能登国ともに比企氏・北条氏の守護となり、御家人長谷部信連が地頭職として能登に赴任し、輪島などを交易の拠点として宿場町として発展させた。
長谷部氏はこの地の実力者となり、長谷部氏の後を継いだ長（ちょう）氏は国人として最大の領主となり、のちに畠山七人衆の一人に数えられる重臣になった。
●室町時代になると加賀国は斯波氏・富樫氏が、能登国は吉見氏・畠山氏が領した。
加賀地方では、室町時代中期になると浄土真宗が広まり、僧蓮如が北陸の浄土系の諸門の統合を進めていた。1473年（文明5年）、守護大名である富樫氏一族の内紛にあたり富樫政親の要請を受けて介入。その結果、寺社勢力・地元武士など信徒が加わった紛争となった。富樫政親は勝利を収めたものの、寺社勢力の勢いに恐れを成して、今度は門徒弾圧に乗り出し、追われた加賀の門徒は越中に逃れた。富樫氏は越中の石黒氏の力を借りて門徒弾圧を進めて鎮圧を図ったが、越中一向一揆となり石黒氏は敗れてしまった。
富樫政親は加賀の支配力を高めようとして9代将軍足利義尚に付いて近江の六角氏討伐にも参戦。しかし、軍事費拡大に国人が反発して、弾圧を受けて越中へ逃れていた門徒達が決起して富樫泰高を擁立して政親を滅ぼしてしまった。
というような流れを経て、戦国大名化した寺社勢力による自治が始まり、武士による支配を脱却した統治が約百年にわたって続いた。（世に言う一向一揆である）
能登地方では、1428年から1429年頃（正長年間）に初代の畠山満慶が七尾城を築城。七代目の畠山義総の時代が最盛期となったが、義総の死後は重臣だった温井氏（能登国天堂城主）・遊佐氏などの「畠山七人衆（＊）」が登場して、配下の大名を傀儡化してしまった。

＊畠山七人衆とは

伊丹総堅・平総知・長続連（能登穴水城主）・温井総貞（輪島天堂城主）・三宅総広
遊佐総円・遊佐続光（珠洲）
（名前に同じ文字が多いのは、長年畠山一族に使えてきた重臣であることを意味している）

遊佐氏は出羽国遊佐郷を本拠地としていたが、南北朝時代に畠山氏が奥州探題となった頃から畠山氏との関係を深め、出羽・河内・能登（珠洲）・越中を領していた。
1560年（永禄3年）に畠山の九代目畠山義綱が実権を取り戻した。
しかし1566年（永禄9年）に再び畠山七人衆の長氏（穴水城主）・遊佐氏らに襲われて、畠山の主流は能登国から追放されてしまい、能登では温井氏の影響力が強くなった。
1577年（天正5年）上杉謙信の能登進攻により七尾城は陥落し、畠山氏も畠山七人衆の時代も終った。
のちに、本願寺とは敵対関係にあった織田信長は、柴田勝家らを動員してこの地の平定にあたり、能登を前田利家に加賀を佐久間盛政に与えた。信長の死後豊臣秀吉の時代になると、前田義家は加賀も領して金沢に尾山城（金沢城）を建てた。
前田利家の長男利長は関ヶ原の戦いでは東軍（徳川家康）に付いて功を上げ、越中国を与えられた。
●江戸時代の幕藩体制になると前田利長は、加賀国・能登国・越中国を治める加賀藩（120万石）の初代藩主となった。二代藩主の前田利常は、1639年（寛永16年）に次男利次に富山藩を三男利治に大聖寺藩を譲り、長男の光高に加賀藩の家督を譲った。しかし光高は1645年（正保元年）に急死。長男綱紀が後継となったが、まだ幼かったので祖父である利家が後見人として藩政を動かした。

この間に農政改革などが進められて、日本海・関門海峡・瀬戸内海を経由して大坂に加賀産の米が輸送され、のちの「西廻り海運」の元となった。
加賀藩は前述の農業政策の他にも、各種産業の育成・学問の奨励・芸術の振興にも尽力した。
また北前船の寄港地であった輪島港を利用した販路拡大にも努め、地域の発展に大きく寄与した。さらに、藩校の設立を皮切りに学問の発展・人材の育成にも力を入れた。
明治に入り廃藩置県により、金沢県、大聖寺県、七尾県などが誕生したが、現在の福井県・富山県にまたがる大石川県ができた。その後様々な経緯から何度か再編が行なわれ、福井県・石川県・富山県の三県の形に治まった。この間には、旧藩の単位での力関係や、政府からの圧力等もあり、「様々な経緯」となったようである。

<3>　曹洞宗総本山
能登の門前町（現在は輪島市に含まれる）に行基の創建といわれる真言宗の諸岳寺という寺があった。
1321 年（元亨元年）、住持が見た夢の中で、「越中の永光寺から瑩山紹瑾という僧を呼べ」との託宣。
瑩山紹瑾を呼び寄せて、この寺を譲った。瑩山紹瑾はこの寺を禅林としてあらためて曹洞宗の総持寺と名付けて開山。後継者による承継も進み、門人が子寺を広げて発展を続けた。
また室町幕府やこの地を押さえていた畠山氏・長谷部氏の庇護を受け、戦乱の時代に焼失したものの、前田氏の元で再興し、江戸時代には加賀藩の手厚い保護を受けて存続し、越前の永平寺とともに大本山の称号を許された。
1898 年（明治31年）に能登の大火で、小施設を除く殆どが焼失してしまった。1905年（明治38年）に再建されたものの、「大本山に相応しい場所へ移転」の気運が高まり、横浜鶴見に移転し「大本山鶴見総持寺」が誕生した。能登の総持寺は「総持寺祖院」として残っている。
能登の総持寺があった「鳳至郡門前町」はのちに輪島市と合併し「輪島市門前町」となった。現在の地図情報で調べて見ると、輪島市に「門前町 XXX（XXX は小字名）」という町名が 100 余りある。地図上で見ただけでも往時の繁栄ぶりをうかがうことができるような広さである。
そもそも輪島という地名の興りは、大陸からの渡来者や漂着者が、能登半島の先端の陸地を見つけて「倭の島」と言ったことにあった。「わのしま→わしま→輪島」と転じてこの地名が生まれたと言われている。1500年代の文献に「輪島」という表記が残っているのでこの時代には一般化していたらしい。
加賀の小松に加我国府・国分寺・国分尼寺などがあった。700年代には白山信仰の原形が動き始めて、越前・美濃・加賀で広まっていった。
能登の七尾には国分寺があり、輪島には曹洞宗の総本山があった、加賀には一向一揆があったなどなど、石川県を語る上では仏教や信仰ははずすことが出来ない要素のように感じた。

<4>　しめくくり
元旦を寿ぐ膳に襲いかかった大地震。大きな被害をもたらしたようだが、なかなか被害の全貌がつかめない。被害の状況を調べることが困難なほどに被害が大きかった。
身内に石川県出身の人が一人いるので、ニュースやインターネット上の情報を確認する日が続いた。
行方不明者の名簿や、ニュース取材の映像などを見ていると、珍しい地名や苗字が数多く目に入ってくる。
私自身の親戚には石川県出身者はいないし、過去に交友があった人も極めて少ない。また、若い頃に各地を旅したことがあるが、石川県には行ったことがない。そんなわけで、地図や報道内容を見ても「土地勘」がないので、知った情報から現実を想像することが難しい。まずは、「石川県ってどんな所だろう？」 から入って見た。
その結果、まだわからないことは沢山あり、理解できていないことは山ほどあるが、とりあえず石川県に興味を持つきっかけにはなった。

以上